

## 「生理人類士」資格認定者数

	1級 アメニティプランナー	準1級 アメニティコーディネーター	2級 アメニティスペシャリスト	総計
2000	6	5	24	35
2001	3	5	86	94
2002	3	16	134	153
2003	0	5	95	100
2004	2	12	113	127
2005	0	14	110	124
計	14	57	562	633

## 2005年度「生理人類士」認定者

### 1 級（アメニティプランナー）

受験者なし

### 準1級（アメニティコーディネーター）

岡本身江子 川村晶子 村上聖子 秋山祐貴子 朝倉早苗 市川紀 浦田睦子 甲斐圭美  
櫻井ひと美 田代美佳 外山哲夫 鳥越春香 奈良留美子 山内まゆ

### 2 級（アメニティスペシャリスト）

青 暢子 阿賀清恵 浅香真梨子 浅田麻衣 稲光さやか 上田愛子 臼井なつみ 内川智恵 大倉史子  
大瀧政子 小笠原綾佳 岡田彩花 岡田笑佳 小野寺彩子 小出未央 古賀由子 小島康代 近藤絢子  
斉藤 恵 新藤久美子 関谷 史 田栗慶美 竹内美江 出嶋由香理 梅坂亜由美 中沢愛加 西島紘子  
早川直美 平山恵里子 深水加奈子 福田和子 丸山星華 溝渕順子 蓑島 翼 柳館なぎさ 八巻愛音  
山田理恵子 横関 香 若松智見 渡邊直子 青嶋未紅 穴水明子 阿部枝里子 天寺陽子 井口 恵  
池田恵里奈 板倉直子 市川佳絵 伊藤啓子 伊東弥生 岩隈彩子 因間美加 内田理奈 梅津裕美  
江口晶子 大鳥井幸子 尾籠咲寄子 折田 恵 陰山佳奈 影山恵子 梶川真美 北村みゆき 木下歩美  
小山裕子 篠原千春 柴田美智代 嶋田麻衣 末安弘美 杉浦元俊 高橋美智代 高橋博子 立川万葉  
田中里奈 千葉康代 詰石多恵 鶴田昌子 寺内未来子 寺園 綾 轟木かずよ 外崎晴菜 友添未希  
中井麻里 中津濱瑠美 中村兼人 中村真依子 中山志穂 苗代 明 根岸里佳 能條裕子 橋本倫代  
橋本英里香 浜田康史 藤田結子 本多加奈 前田 恵 松野江利子 皆川奈緒子 三宅裕美 村上貴子  
村上 梓 村松 優 元山いづみ 安井志伸 安元彩子 山田陽子 吉富亜希 吉野舞子 吉村仁美 Lu Qi  
渡邊あゆ美

# アメニティの機関紙

アメニティの機関紙  
第 4 号  
2007年3月30日発行  
日本生理人類学会  
資格認定委員会

人類は誕生以来、厳しい自然環境への適応能力と直立二足歩行による運動適応・移動能力を獲得し、科学技術の発達によって地球上に広く分布してきました。しかし、人工環境の普及とアメニティ（快適環境）の充実は、ヒトの適応能力を劣化させています（都市化・情報化によるストレス、生活習慣病や冷房病の増加など）。このような現代都市文明に生きる我々人類にとって、健康・快適で感性豊かに生活するためにはいったい何が今必要であるのかということが問われています。本来、人類が有する合理的な適応能力を明らかにし、私たちがもっと人間そのものについて深い知識を蓄積することによって、将来の望ましい生活環境への示唆が得られます。

このような問題意識のもとに日本生理人類学会では、この領域に携わり得る人材育成のため、生理人類士認定制度を創設して今年で7年目を迎えました。本年度は、生理人類士資格認定試験の受験手引書として「生理人類士」テキストの改訂版を編纂しました（生理人類学キーワードの説明、分かりやすい図・表・写真等の掲載、演習問題の大幅な追加など）。また、今年度から指定校の認定手続きについては、指定校認定のための手続きが大幅に簡略化され、さらに指定校認定の申請料も廃止されました。

本制度を生理人類学の進展と社会貢献を目指した人材を育成する資格制度として、より充実したものにする必要があります。生理人類士資格認定委員会では、現在、その方策について検討を進めています。また、生理人類学は日々進展していますので、資格取得者への今後のフォローや生理人類士相互の情報交換が必要であると思われます。

この「アメニティ」資格は、あらゆる人が暮らしやすい生活環境の提案やアドバイスをこなうことができる重要な資格といえます。「アメニティ」資格を有することで、高齢者や障害者を含めたあらゆる人、働く人の心と体に優しい環境づくりを追求します。

生理人類士の資格を一人でも多くの方が取得され、社会において活躍されることを期待しています。

2007年3月  
資格認定委員会委員長  
古賀俊策

＜生理人類士認定委員会事務局および問い合わせ先＞

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 (株)国際文献印刷社内  
TEL: 03-5389-6218 FAX: 03-3368-2822 jspa-post@bunken.co.jp

## 生理人類士の声

今回は、準1級（アメニティ コーディネーター）と2級（アメニティ スペシャリスト）取得者の方から記事をいただきました。

### 2006年生理人類士準1級

#### 中崎恭子 さん（武蔵野大学大学院）

私が生理人類学の分野に初めてふれたのは今から3年前、大学3年生の頃です。最初はそれまで知らなかった分野に挑戦してみたいという気持ちで始めましたが、勉強するにつれて人間の生理、特性に興味を持ち、生理、心理、環境など多様な視点から考えるこの分野の幅の広さ、奥の深さを感じつつ、生活のあらゆる場面に活かせる分野であると感じながら勉強しております。現在、私は睡眠に関する研究を行っています。今まで学んできた知識を活かしつつ、私たちが快適に生活するための大きな要素の一つである睡眠を、いかに効果的に十分にとれるか多様な視点から考えながら、今後も現代社会で生きる私たちにとってより快適な生活とは何か、多角的な面から研究をしていきたいと思っています。そして少しでも研究の成果を社会に還元していけるよう一層の努力をしたいと思っています。

### 2006年生理人類士準1級

#### 許 海波 さん（武蔵野大学大学院）

私は中国北京から来た留学生です。大学三年生の時に「生理人類学」という授業を受けて、生理人類学の基礎知識を学びました。生理人類学は、私にとって新しい学問であり、簡単に理解できるものではありませんでしたが、一年間の勉強を通して、生理人類学の初歩を身につけ、生理人類士の二級を受験、資格を取得しました。これを基に、生理人類学の魅力を見つけていこうと思い、大学院に進学してきました。生理人類学会発表会への参加を始めとし、先生方の新しい研究結果を聞き、生理人類学をもっと理解できるようになりました。また、修士課程の生理人類学特論の講義では、生理人類学を勉強した上、発表するなど、留学生としてうまく発表できるように、同級生よりもっと勉強しなければなりません。修士課程一年間の日々の勉強によって、生理人類学を深く学び、昨年末に生理人類士準一級を受け、みごと合格しました。これから、身につけた生理人類学の知識を活かして、修士論文研究に活用するように考えています。

### 2006年生理人類士2級

#### 加藤亜実 さん（実践女子大学）

成熟し豊かになった日本社会。私たちは、快適・便利な生活を支持し、追究してきました。しかし、楽に生きてゆけるが故に、発生する問題があるのは考えものです。冷暖房完備の生活によって体温調節が上手く機能しない人が増えていることはよく耳にします。便利が必ずしも良くないと気付き始めているのに、それに甘え、ぶら下がっています。知恵を働かせることや、手間を掛けることをしなくなりました。自然との共存を念頭に、改めて人の生態・機能を見直していく時が来ていると思います。生理人類学は人としての根本を軸に、真理を究め、新しい発見をする学問だと思っています。大学では、人間環境学実験でマルチン式人体計測計、捺印法、石膏法等を用いて人間の測定を行なってきました。また皮膚温、代謝量、生体電気などを測る器材を使用する体験をしました。卒業論文では、これらの技術を駆使して生理人類学的視点から現代の問題について研究したいと思っています。

### 2006年生理人類士2級

#### 梅宮まりえ さん（武蔵野大学）

私は現在、大学の卒業論文のテーマを模索中です。私の所属しているゼミでは基本的に、筋電図や脳波といった生理計測や調査を行なって論文を書き上げなければなりません。そのため、興味のあることならば何でもテーマにできる訳ではなく、計測や調査が実現可能なものを選択する必要があります。生理人類士の資格を取得する中では、様々な種類の生理計測法や生体のしくみについて学びました。この知識からテーマ選びのヒントになるものはないかと考えると、どのような内容でも身近な日常生活につながっているという事に注目すべきだと思いました。そのことに気づいてからは、いつもなら気になっていなかったような生活の中のちょっとした事を生理人類学的というような視点でみるようになりました。例えば、スーパーなどで最初に目につく野菜コーナー。なぜ、野菜が最初に置かれているのか、選びやすい棚の高さは決められているのか。一つの事からこういった存在の意味や、人間にとっての使いやすさなどの考えにつながっていくと、自分の視野が広がっていくような気がします。日常生活と生理人類学で学んだ事を応用させて論文を完成させるだけでなく、もっと先の将来でも役立てていきたいと思っています。

### 2006年生理人類士2級

#### 佐藤昭雅 さん（武蔵野大学）

正直に言うと、私はつい最近まで生理人類士という言葉すら知りませんでした。しかし、ゼミに入って生理人類学という学問を知り、生理人類士という資格に興味を持つようになりました。

また、私は以前から音楽が好きだったこともあり、卒業研究では、音とリラクゼーションの関係を、心理的だけでなく、生理的観点から研究しようと考えていました。

生理人類士の知識はそのような卒業研究に活用できるのではないかと考えたのも受験のきっかけです。

受験に関して、試験前は テキストをしっかりと勉強することも大事ですが、楽しく学習するために、具体的な事例を調べることもよいと思います。調べてみると、難しい言葉も私たちの周りや体内で起きていることばかりです。身近に感じると、言葉で覚えるよりもまずイメージで覚えることができ、より上質な知識として吸収されると思います。

私は 2級を取得しましたが、これからも勉強を続け、深い知識を身につけていきたいです。

### 投稿記事大募集！

生理人類士を取得された皆様へお願い

生理人類士を取得し、その後どのような仕事を行っていますか？生理人類士として、社会で活躍されている方の経験談や、生理人類士の資格をどのように生かしているかについてなどを、「アメニティの機関紙」への投稿を大募集いたします。事務局宛まで投稿原稿をE-mailで送っていただくか、FDにテキスト形式で入力したものを郵送してください。

今後、このアメニティの機関紙を生理人類士同士の情報交換の場として御活用いただければ幸いです。